

## グローバル・カフェ「留学報告イベント(アメリカ & ブルネイ編)」を開催しました

2023年10月31日(火)18時から、グローバル・カフェでは「留学報告イベント(アメリカ & ブルネイ編)」を開催しました。本学の学術交流協定校であるアメリカのコロラド州立大学(以下、CSU)に留学した岡林徹さんと、同じく協定校であるブルネイ・ダルサラーム国のブルネイ・ダルサラーム大学(以下、UBD)に留学した塩崎達也さんに、留学先での授業の様子、現地での生活、旅行体験などを紹介していただきました。二人ともJASSOの海外留学支援制度(協定派遣)の奨学金支援を得て留学しました。留学生1名、日本人学生10名、教職員4名の計15人が参加しました。

UBDに9か月間留学した塩崎さん(経済学部 経済学科)はこの留学目的を、「イスラム圏での経済体制を探る」「英語のSpeaking力向上」「ブルネイと日本の関係性を学ぶ」におき、UBDで「Islamic Economics」「Statistics for Business and Economics」などの5つの授業を履修しました。

UBDの授業は、110分の講義と、60分のTutorialの計170分で構成されています。講義で学んだ内容に関してアウトプットする学習活動をするのがTutorialで、授業内容への理解を深めます。始めは授業の長さに慣れるのが大変だったそうですが、授業中は、必ず何か質問をしようと心掛け、Tutorialの時間を通じてSpeaking力が向上したとのことでした。

UBDではバスケットボール部やネットボール部に所属し、部活動を通じて仲良くなった友人たちと体を動かすことで気分転換を図っていたそうです。ブルネイはイスラム教国家であるため、豚肉やアルコールを食することが禁止されています。大好きなブルネイ料理として「Nasi Katok」という鶏肉料理をあげ、日本の鶏肉より柔らかくて、とても安価だったと語ってくれました。

質疑応答の時間では、「UBDの授業は朝何時からか?」「寮からは遠いのか?」「他に日本人はいたか?」との問いがありました。授業は1時間目が午前7時50分開始だが、寮から大学まで約2kmなので、毎日7時20分ごろに寮を出て徒歩通学をしていた、ブルネイの日差しはきついので、日中に徒歩移動するときは、日傘が手放せない、と話されました。日本人の数は、他大学から留学している学生が男女合わせて15名ほどだったそうです。



今回の留学を振り返って、「最初の一か月間は全く英語が通じない、授業についていけない状態が続き、とても苦しかった。それでも寮にこもらず、とにかく外を出て、誰かと話をしたり出かけようと奮闘した。三か月目には友達も増え、授業の内容も半分以上は分かるようになり、六か月目にはほぼ理解できるようになった。」と述べられました。これから留学を目指す参加者のみなさんへ、「何か新しいことを始めるというのは、きついことが多い。反対する人もいる。でもコンフォートゾーンを抜け出さないと、何も変わらない。その先に行った人にしか見えない景色がある。皆さんもぜひ留学に挑戦して欲しい。」とエールを送りました。

CSUに10か月留学をした岡林さん(教育学部 英語領域中学校コース)は留学目的を、「言語の教授法

について学ぶ「マルチリンガルになる（英語以外の言語をマスターする）」とし、CSUで「Schooling in the United States」、「First-Year German 1」、「First-Year Spanish 1」を履修しました。岡林さんのビザはJ1-VISAというビザで、CSUで最低12単位、最高15単位まで取得可能という制限があるため、計13単位取得したとのことでした。

授業は75分授業ですが、先生が話している間はおよそ20分程度で、あとは学生同士のディスカッション形式で進みます。宿題は主にクラスメートが提出したレポートやエッセーを読み、コメントを考えてくるというもので、授業内でそのレポートの内容について、自分の考えを述べるが多かったそうです。授業についていくためには、事前準備が不可欠であったと話されました。

CSUでは、IFC(International Friendship Connection)という、現地の学生だけではなく様々な国からCSUに留学中の学生たちが、交流を深めることを目的に集まるクラブがあり、毎週金曜に集まり、バーベキューやゲームを通じて、メンバーとの親睦を深めたそうです。また、毎週木曜日にはクリスチャンが集まるクラブにも参加し、メンバーと一緒に教会を訪れたり、ビリヤードや映画鑑賞を楽しむ様子など写真を交えて紹介していただきました。



今回の留学を終えて、「言語の教授方について学ぶという目標の達成度は90%程度、履修したスペイン語およびドイツ語の授業では、言語だけではなく教授法やその有効性を学べた。マルチリンガルになるという目標の達成度は50%で、スペイン語は日常会話レベルまで伸ばせたが、ドイツ語での会話はまだ難しい。」と話されました。

参加者からは、「なぜマルチリンガルを目指しているのか？」

「CSUではテストはあったか？」との質問がありました。それに対して「純粹に言語が好き。新しい言語を学ぶと自然と出会いも広がる。CSUではスペイン語を話す学生も多かったので、英語にスペイン語の単語が混ざった会話も多かった。おかげで自然とスペイン語の語彙力が増えた。」と回答されました。テストについては、「滞在中に期末テストがあった。日本だとテスト前日に徹夜で暗記してテストに挑む方も多いと思うが、こちらのテストは丸暗記では通用しない。単に答えを尋ねる問題ではなく、自分の考えを述べるエッセー形式が多く、教授の求めていること（授業の内容）をきちんと理解していないと、評価されない。」と語ってくれました。

塩崎さん、岡林さん、それぞれの努力によって、いかに留学生生活を充実させていったかが知れる大変有意義な時間となりました。いつか、今日この場所で、二人の話に真剣に耳を傾けていた参加者が、同じように頼もしい留学報告をする日を願います。



次回のイベントは、11月15日（水）映画イベントです。「SWING GIRLS(2004,日本)」を日本語、英語同時字幕で鑑賞します。